

## 2024年度 白梅学園大学・短期大学 授業評価アンケート結果報告

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD・SD 委員会

本学では教育の質向上を目指し、学生と教員の間での、学修成果に関する情報を共有する一環として授業評価アンケートを2002年度（大学は2005年度）から実施してきた。授業評価アンケートの結果や学生からのコメントを通じて、教員の指導内容の改善を目指している。また、授業評価アンケートに学生が取り組むことを通じて、自身の学びを振り返り、修得した成果と課題を可視化することに繋げていきたいと考えている。

実施にご協力いただいた各教員には、深く感謝し御礼申し上げたい。

以下、本年度の授業評価アンケートの概要および分析結果についてご報告する。

### 1. 授業評価の実施主体

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD・SD 委員会

### 2. 授業アンケート評価の実施方法

#### (1) 授業アンケートの実施と結果分析

調査の実施および集計は白梅学園大学・白梅学園短期大学教務課が行った。なお、結果分析については、FD・SD 委員会が実施した。

#### (2) 授業アンケートの実施方法

##### ①実施回数および方法

年度内に2回（前期と後期）、ウェブ上（学生ポータルサイト）にて行った。回答は無記名受講学生の回答は昨年通り必須とした。ポータルサイトから繰り返し学生へ周知を行い、各授業内においてアナウンスした。

##### ②対象授業科目

全科目について実施（通年科目、実習指導関係の授業、ゼミを含む）。

##### ③実施時期

前期および後期の実施期間、回答率は以下の通りである。

	実施期間	回答率(大学)	回答率(短大)
前期	2024年7月16日（火）～8月3日（土）	50.0%	55.2%
後期	2025年1月6日（月）～1月27日（月）	44.2%	54.8%

##### ④授業評価の結果公開

大学・短大全体の授業評価結果（全科目の総合集計結果）のみを本学HP上にて公開する。個別集計結果についてはウェブ公開しない。なお、教員各自が担当する科目の集計結果については、集計終了後に各教員に開示した。

### 3. 授業評価アンケートの質問項目

#### 【前期】

#### (1) 学生自身の自己評価

設問1 (学習目的) 私はディプロマポリシーとこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。

設問2 (学習態度) 私は授業をしっかりと受講した。

設問3 (学習態度) 課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。

設問4 (内容理解) 私はこの授業の内容を十分に理解することができた。

設問5 (総合評価) 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

#### (2) 授業担当者に対する評価

設問6 (熱意態度) 教員は熱意をもって授業に臨んでいた。

設問7 (授業運営) 教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。

設問8 (授業方法) 授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。

設問9 (基本項目) 教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。

設問10 (学生対応) 教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。

設問11 (総合評価) この授業の教員は総合的に評価して良かった。

#### (3) 授業内容に対する評価

設問12 (授業難易度) この授業は分かりやすかった。

設問13 (授業進度) この授業の進め方のペースは適切であった。

設問14 (教科書等) この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。

設問15 (授業内容) この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。

設問16 (総合評価) この授業は総合的に評価して良い授業であった。

#### (4) 自由記述

設問17 (授業内容・方法全般) 授業内容・方法や学生対応など、この授業で良かった点があれば挙げてください。

設問18 (授業改善) 授業内容・授業方法・授業課題について改善点があれば挙げてください。また、実際に授業を受けてみて、困ったことがあれば挙げてください。

設問19 (その他) この科目に限らず、本学の授業について意見や感想等があれば、挙げてください。

カテゴリー(1)～(3)の回答選択肢は、1:そう思う(5ポイント)、2:ややそう思う(4ポイント)、3:どちらとも言えない(3ポイント)、4:あまりそう思わない(2ポイント)、5:全くそう思わない(1ポイント)の5段階評価とする。

\* 設問1について2023年度後期より変更した。

## 【後期】

### (1) 学生自身の自己評価

- 設問1 (学習目的) 私は、ディプロマポリシーとこの授業との関係を理解していた。
- 設問2 (学習態度) 私は授業をしっかりと受講した。
- 設問3 (学習態度) 課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。
- 設問4 (内容理解) 私はこの授業の内容を十分に理解することができた。
- 設問5 (総合評価) 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

### (2) 授業担当者に対する評価

- 設問6 (熱意態度) 教員は熱意をもって授業に臨んでいた。
- 設問7 (授業運営) 教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。
- 設問8 (授業方法) 授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。
- 設問9 (基本項目) 教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。
- 設問10 (学生対応) 教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。
- 設問11 (総合評価) この授業の教員は総合的に評価して良かった。

### (3) 授業内容に対する評価

- 設問12 (授業難易度) この授業は分かりやすかった。
- 設問13 (授業進度) この授業の進め方のペースは適切であった。
- 設問14 (教科書等) この授業の教科書・配付資料・プレゼン内容は適切であった。
- 設問15 (授業内容) この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。
- 設問16 (総合評価) この授業は総合的に評価して良い授業であった。

### (4) 自由記述

- 設問17 (授業内容・方法全般) 授業内容・方法や学生対応など、この授業で良かった点があれば挙げてください。
- 設問18 (授業改善) 授業内容・授業方法・授業課題について改善点があれば挙げてください。また、実際に授業を受けてみて、困ったことがあれば挙げてください。

カテゴリー(1)～(3)の回答選択肢は、1:そう思う(5ポイント)、2:ややそう思う(4ポイント)、3:どちらとも言えない(3ポイント)、4:あまりそう思わない(2ポイント)、5:全くそう思わない(1ポイント)の5段階評価とする。

\*設問1について、2024年度前期より変更した。

#### 4. 授業評価アンケートの結果

##### (1) 質問項目別にみる集計平均値

(大学)

設問 番号	質問項目	2024 前期	2024 後期	2023 前期	2023 後期
1	2023年度 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	—	—	4.47	4.49
	2024年度 前期 私はディプロマポリシーとこの授業の到達目標を理解 していた。	4.40	—	—	—
	2024年度 後期 私は、ディプロマポリシーとこの授業との関係を理解 していた。	—	4.44	—	—
2	私は授業をしっかりと受講した。	4.65	4.61	4.60	4.58
3	課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。	4.65	4.62	4.57	4.60
4	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.48	4.45	4.42	4.42
5	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.60	4.57	4.56	4.54
6	教員は熱意をもって授業に臨んでいた。	4.72	4.69	4.68	4.68
7	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.54	4.56	4.52	4.53
8	授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。	4.61	4.62	4.58	4.58
9	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.63	4.63	4.60	4.62
10	教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。	4.61	4.61	4.60	4.60
11	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.63	4.64	4.61	4.61
12	この授業は分かりやすかった。	4.50	4.52	4.50	4.50
13	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.56	4.58	4.54	4.55
14	この授業の教科書・配布資料・プレゼン内容は適切であった。	4.61	4.62	4.59	4.59
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.66	4.65	4.62	4.63
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.64	4.65	4.62	4.63

(短大)

1	2023年度 私はこの授業で何を学ぶのかを明確に理解していた。	—	—	4.51	4.43
	2024年度 前期 私はディプロマポリシーとこの授業の到達目標を理解していた。	4.45	—	—	—
	2024年度 後期 私は、ディプロマポリシーとこの授業との関係を理解していた。	—	4.54	—	—
2	私は授業をしっかりと受講した。	4.71	4.76	4.63	4.52
3	課題や試験の準備に真剣に取り組んだ(でいる)。	4.70	4.76	4.62	4.54
4	私はこの授業の内容を十分に理解することができた。	4.56	4.59	4.47	4.41
5	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4.67	4.74	4.57	4.47
6	教員は熱意をもって授業に臨んでいた。	4.76	4.79	4.64	4.55
7	教員は学生の理解度や反応を考慮して授業を行っていた。	4.62	4.63	4.52	4.42
8	授業方法や使用した教材に熱意や創意工夫が感じられた。	4.67	4.70	4.55	4.47
9	教員の話し方、声、言葉は聞き取りやすかった。	4.71	4.74	4.55	4.48
10	教員は学生の質問や相談に丁寧に対応していた。	4.68	4.71	4.57	4.46
11	この授業の教員は総合的に評価して良かった。	4.71	4.70	4.56	4.49
12	この授業は分かりやすかった。	4.63	4.62	4.48	4.40
13	この授業の進め方のペースは適切であった。	4.68	4.68	4.53	4.46
14	この授業の教科書・配布資料・プレゼン内容は適切であった。	4.71	4.69	4.58	4.47
15	この授業から新しい知識、考え方、発想を学ぶことができた。	4.72	4.74	4.59	4.51
16	この授業は総合的に評価して良い授業であった。	4.72	4.73	4.58	4.51

比較のため2023年度の結果を併記した。学生自身の自己評価（設問1～5）、授業担当者に対する評価（設問6～11）、授業内容に対する評価（設問12～16）の3つのカテゴリーの各設問項目において、前後期とも設問1を除いては昨年度のポイントより高くなっている。ここ数年において、前年度の数値を上回る高い数値が得られおり、今年度も同様の結果となった。先生方のご尽力に心から感謝したい。

(2) 自由記述の内容

自由記述については、そのほとんどが授業に対して好意的なものであった。一方で、課題に伴う期限設定の要望や、教員の話し方が聞き取りづらいとの意見も散見された。また、実習授業においては、オムニバスにおける教員間の連携についての改善等々が寄せられた。これらについては、科目担当教員が真摯に受け止めた上でコメントを返し、改善を図っていきたい。

5. 授業改善に向けた課題と成果

(1) 2024年度の全体的な傾向

2024 授業アンケート平均（主要な質問項目別：大学・短大）

◎ 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ（問5）

前期科目		後期科目	
大学	短大	大学	短大
4.60	4.67	4.57	4.72

2023年度 大学 4.56 短大 4.74      大学 4.54 短大 4.67

◎ この授業の教員は総合的に評価して良かった（問11）

大学	短大	大学	短大
4.63	4.71	4.64	4.70

2023年度 大学 4.61 短大 4.75      大学 4.61 短大 4.72

◎ この授業は総合的に評価して良い授業であった（問16）

大学	短大	大学	短大
4.64	4.72	4.65	4.73

2023年度 大学 4.62 短大 4.75      大学 4.63 短大 4.73

主要科目においても、全体的に評価が高く、5点評価中、全ての評価が4.5以上の評価を得ている。大学は全ての設問において昨年度よりポイントが高くなっており、短大については、ほぼ昨年度と同様であったが、全ての設問で4.6以上であった。大学においても短大においても授業に対する学生の評価が非常に高いことが伺える。

自由記述より一部抜粋

授業でよかった点	改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問した内容に対して真摯に答えてくれるため学びが深まった。</li> <li>・ディスカッションをする機会がたくさんあったのでいろいろな意見を知ることができた。</li> <li>・授業外で随時課題に関しての相談にのってくれた為、授業理解が大きく深まった。</li> <li>・先生が学生一人一人と向き合おうとしている姿勢がすごく素敵だと思いました。有難うございました。</li> <li>・学生との対話を大切にしながら授業を進めている点がよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の声が聞き取りにくい。</li> <li>・課題に提出期限にもう少し余裕がほしい。</li> <li>・出席、欠席、遅刻の基準をはっきりしてほしい。</li> </ul>

自由記述については、昨年度と比べ改善点のコメントが減少した。よかった点についても多くの記述があり、これらの評価を受け、教員側の励みとなっている。

(2) 2024年度の課題と成果

課題

1) アンケート実施の周知

前期の回答率は、大学が50.0%、短大が55.2%、後期の回答率は大学が44.2%、短大が54.8%であった。前期は昨年度よりも低く、後期は大学短大共に高くなった。特に短大は昨年度と比較し15%の改善がみられた。後期については、例年回答率が低くなる傾向にあることから、授業時間内での実施の協力を求めたことも改善に繋がったと思われる。更なる改善に向け、授業内でのアナウンスの徹底と学生へのリマインドの時期について検討していく。学生からのアンケートが、以降の本学の授業改善に繋がるという趣旨も含めて、周知に努めていきたい。

2) ディプロマポリシーと到達目標との関連付けについて

今年度、ディプロマポリシーと授業との関連について設問項目を設けた。結果としては低いポイントとなったが、具体的なディプロマポリシーを通して、計画的なカリキュラムを設計し、個々の授業の実施に至るという一貫性構築の営みであることから、FD・SD研修でも取り上げ理解が深まるよう取り組んでいきたい。

3) 学生の授業内容の理解度について

相対的な評価は高いが、問4（内容理解）、問7（授業運営）、問12（授業の難易度）については、多少ポイントが下がっている。学生自身の探究に繋がる授業方法等についても模索し取り組んでいけるようFD・SD委員会でも取り組んでいきたい。

成果

1) 問6（熱意態度）については、前期大学は4.72、短大4.74、後期大学4.69、短大4.79であり、最も高い評価を示していた。本学教員の学生に対する教育の熱意が学生に伝わっていることが伺えるが、このことが本学の最も大きな特徴であり、ヒューマンイズムの精神が具現化されているといってもいいのではないだろうか。

## 2) 学年進行によるポイント上昇

データを本稿では示していないが、学年が上がるにつれて、授業評価のポイントが上がっている。その要因として、①授業評価アンケートを通じて学生自身が振り返ったことによること、②教員の学生に対する理解が深まったこと、③その結果として、学生と教員の間で相互の理解がより深まったことが考えられる。

## (3)

### 1) 学生と教員の往還的な評価・改善

授業担当者に対する評価が21年度、22年度、23年度24年度と毎年上がってきている。これは、授業評価アンケートの評価や学生が記入したコメントを基にして、各教員が授業内容を見直している事の結果であろう。

学生のコメントについては、2022年度は評価基準や試験内容についての意見がみられたが、教員が具体的場面の振り返りを行ったことから、2023年度、2024年度はこれらに関する湖面がみられなくなった。その振り返り過程で、教員側の思いと学生の思いに差があったことに気づき、改善を図ったことで本年度は試験内容に関する学生からのコメントが全くない結果となった。このような取り組みを教員一人ひとりが実践していった結果であると思われる。

このことは、評価点が最も高かった問6（教員の熱意・態度）にも示されているように、本学教員の姿勢にも表れている。

### 2) FD・SD研修

今年度のFD・SD研修では「配慮を必要とする学生への対応」について取り上げ、全教員が参加し取り組んだ。配慮を必要とする学生について理解を深めることは、その他の学生と教員との往還的な関係を作るうえでも重要な事である。このような取り組みは、将来の授業評価に表れてくると考えられる。

### 3) 今後の展望

以上のことから、本学の授業評価における学生からの評価は非常に高いと言える。このような評価が出るということは、学生が全体として学習意欲が高いこと、保育・教育・福祉のこれからの課題に取り組みたいという姿勢などが挙げられるだろう。また、本学教員が熱意を持って学生の教育にあたるという姿勢によっている。そこには、学生を第一に考え授業を展開出来ている結果でもあるのではないだろうか。学生が尊重され、教育を受けることが、学生を育てることに繋がり、学生が卒業して利用者や子どもたちに対しての姿となっていくと考えられる。さらに、本学の建学の精神であるヒューマンイズムの精神として根づくであろう。